

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700434		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	(有)リアン グループホームえみな栄町		
所在地	北海道岩見沢市栄町2丁目1番9号		
自己評価作成日	令和 4年 5月10日	評価結果市町村受理日	令和4年7月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/U1/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_U22&kani=true&JievosvoCd=0175700434-00&ServiceCd=320](https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/U1/index.php?action=kouhyou_detail_U22&kani=true&JievosvoCd=0175700434-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和4年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様、また地域の皆様との絆を大切に、多くの笑顔を生み出す事ができるような支援を目指しています。  
医療との連携により、安心して生活できるように、ご利用様の状態にあったケアを行っています。  
日常生活では、ご利用者様とスタッフ、ご利用者様と地域社会、スタッフと地域社会、ともに生活を楽しみ、ともに笑顔を持てるような関りを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、バス停や公園から至近距離にあり、閑静な住宅街に位置しています。併設の小規模多機能型事業所の利用者とは地域住民として行事等で交流がりましたが、現在は自粛しています。外部評価の訪問調査時に、玄関でガラス越しに利用者と家族が満面の笑みで会話している姿を垣間見ることができました。職員は、今できることは何かを模索し、周辺の散歩やバラ園へのドライブをしたり、食の楽しみとして、季節に応じた行事食や誕生日の食事要望を取り入れ、また、おやつレクを企画しパンケーキ等を利用者と一緒で作っています。利用者は、得意の編み物や調理、掃除、洗濯物量み等家事に勤しみ、レクリエーションでは、カルタ取りに興じています。最期までここで暮らしたいとの要望を受けとめるなど、安心感ある環境を整えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、事務所及び食堂兼居間に掲示し、理念に沿ったケアサービスを提供できるよう努めている。	地域密着型事業所としての役割を認識した、7項目からなる法人理念を共有しています。管理者は、新人研修で理念の重要性を伝え、日々の業務や会議等で、理念が実践できているかを職員に問いかけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方とお会いした際には、必ずご挨拶をし、町内行事への参加や、併設の小規模多機能型居宅介護のご利用者とは日常的に交流がありました。現在はコロナ禍にいずれも出来ていない。	コロナ禍により、地域との交流はお互いに自粛していますが、回覧板で情報が得られた廃品回収に協力しています。女性・子供110番に登録し、困り事の相談所としています。さらに住民からの介護相談にも真摯に耳を傾けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の利用のご相談で来訪あった際には、ご利用の要件や、またその他の支援方法、他の介護サービスの情報等お伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、お集まりいただいていた運営推進会議は開催できていませんが、サービスのご利用状況や職員の研修受講の状況などを書面でお伝えしている。	感染状況により、運営推進会議は職員のみでの書面会議としています。利用者の状況、職員の活動報告、ヒヤリハットや事故の有無等を議事録にまとめ、推進委員に配布しています。意見や提案が出されたときは、運営やケアの向上に繋げる態勢にあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様それぞれのケースにより、必要に応じて、ケアマネージャーや管理者が対応しています。	行政とは管理者と介護支援専門員が、各々の案件で窓口担当者とは関わっています。事故報告書は直接手渡し、提出物はFAXや電話を利用しています。認定調査で来訪の担当者とは情報を共有し、利用者の安定した生活を支えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。毎月の会議の際に、身体拘束虐待防止委員会を開催し話し合いを持っています。	毎月、系列4事業所合同の身体拘束廃止・虐待防止委員会が開催され、内容は職員の共有としています。さらに資料を用いて適宜行っている勉強会でも、適正な介護のあり方を学んでいます。不適切な場面では、管理者が助言をし、正しい理解に繋げています。	前回の課題である、身体拘束適正化に関する書類の整備が完成に至っておらず、継続しての取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で行われる虐待防止に関する研修会に出席し、その結果はスタッフ間で報告をする事によりフィードバックし、情報の共有をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し、その結果をスタッフ間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはしっかりと説明を行っています。不明点や不安な事などは随時相談を受け、丁寧な説明ができるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際には、ご利用者様のご様子をお伝えするとともに、ご家族様のご意見もいただけるような会話を心がけています。	家族には毎月写真掲載の「リアン通信」のほか、時には個別に写真を送付しています。電話やガラス越しの面会時等に利用者の様子を伝えていきます。利用者や家族の要望には、出来る限り応えるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者やケアマネージャーは、実際の介護の現場に入ることあり、スタッフからの意見はいつでも聞く事ができます。出きる限り速やかに対応するように上司へ伝えるなどの方法をとっています。	代表者は来訪時に、管理者からの運営報告や職員の意見を聞いています。管理者は、日々の業務や会議、年1度の人事考課による個人面談で、職員の意見や提案を傾聴し、運営に取り入れ、意欲向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の希望や研修会への出席など、向上心を持って働けるよう、また、個々の勤務の希望や個人的な事情などを加味しての勤務を組み立てています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、また、日々の介護の方法についても悩みがある際には相談を受けるなど、スタッフ一人一人の技術の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループ会社の会議や懇談会などに出席できるような機会を作っています。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報を確認しあい、入所直後には時間をかけて対応するなど、不安のないよう対応しています。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様ともしっかりとコミュニケーションを図り、不安な点やご希望などを把握できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様ともに、入居される前の段階でしっかりと話し合い、ニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や掃除、洗濯など、個人個人の負担にならない範囲で、できる事をしていただき、生活の中のリハビリとともに役割を持って生活していただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力医療機関以外への受診の対応などをお願いしたり、ご本人から日用品など購入依頼があった際には、可能な限りご家族へお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が来られた際には、可能な限り面会できるようにしています。	家族とガラス越しの面会が可能になり、利用者や家族の笑顔が見られています。母の日に届いたメッセージカードを代読したり、家族との電話を取り次ぎ、ドライブで馴染みのバラ園を訪れるなど、人や場との関係性を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は主に居間で過ごしていただき、ご利用者様同士の関わりがもてるようにしています。ご利用者様の間でトラブルになりそうな場合は、スタッフが速やかに介入できるよう、見守りを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事や不安な事があれば、いつでも相談いただける事をお伝えしています。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の体調や、また安全面を考慮しながらご希望に添えるよう対応しています。実現が困難な場合は一緒に代替案を考えるなどの方法もとります。	職員は、コミュニケーション能力を高め、利用者の思いの汲み取りに努めており、入浴時は本音が聴ける機会となっています。意思疎通が困難なときは、介護記録や家族の情報を参考にしたり、二者択一を試みています。	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をしっかりと確認し、入居されてからもご本人との会話や、面会時のご家族様のお話などから、把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や興味をもたれている事柄などを観察し把握できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察や会話の中から必要な情報をくみ取り介護計画に反映しています。	介護計画の更新時や急変時は、事前に得ていた利用者や家族の意向を踏まえ、職員全員で評価や課題分析を行っています。新たな視点で作成した支援目標の実践状況は、記録簿で確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアの実践記録をとり、それを元に情報共有する事、また、スタッフ間の連絡ノートを有効に使い、細かい情報も共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな日課はありますが、その時々に応じて個別の対応をするなど、柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会へ加入し、地域との関わりをもてるような支援を考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診、往診の対応を基本としていますが、協力医療機関以外への受診にも、ご本人やご家族様の都合に合わせて送迎や付き添いなども行っています。	現在は利用者全員が、週1回の訪問診療と必要時に歯科医の往診を利用しています。他科受診は家族支援ですが、状況によっては職員が同行しています。月2回、訪問看護師による健康チェックもあり、健康状態は関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により定期的に訪問看護を受けています。個人の状態をお知らせし、適切な対応につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、随時の面会を行い、医療関係者から容体について説明を受け状況を把握しています。早期の退院に向けて、事業所内でできる事をお知らせします。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時だけでなく、体調変化に応じて都度の面談や相談の機会を持ち、十分な説明と丁寧な対応を行っています。主治医との連携により、きめ細かい支援の体制を作っています。	重度化や終末期の対応は指針に沿って説明し、看取りについての事前確認書で、利用者や家族の意向を把握しています。看取り時の面会は、感染症予防対策を施し柔軟に対応しています。主治医、家族と共に、尊厳ある支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を受け、事業所内ヘフィードバックすることで非常時に備えています。また、緊急連絡先や医療機関の連絡先も備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	警備会社、町内会、消防と連携し、定期的な避難訓練を行い非常時に備えています。地震を設定した避難訓練も行っています。また災害に備え自家発電設備を購入しました。	消防署や警備会社の指導の下、火災避難訓練を1回実施しています。訓練後に得られた助言や職員による振り返りで表出した課題は、次回の訓練に生かすこととしています。災害時備蓄品も随時用意しています。	年2回、日中・夜間想定火災避難訓練と、年1回の地震想定避難訓練の取り組みに期待します。加えて風水害と入浴時などケア場面の対応策、避難場所への実践的訓練の実施についても期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いや優しい声掛けを心がけています。簡素な言葉が通じやすい方には、その方に合った方法で伝えられるようにしています。	身体拘束適正化委員会や勉強会の中でも適切な言動のあり方を学んでおり、実践に努めています。同性介助の要望に応じ、利用者についての伝達時はイニシャルを使い、個人記録の取り扱いにも注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方にはクローズドクエスションを用いるなど、工夫しながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その方のペースやその日の気分によりそえるような支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を定期的にお願ひし、カットやパーマ、顔そりを受けています。女性の化粧や男性の髭剃りなど整容の手伝いをしたり、身だしなみに対する支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に献立を考えたり、ご希望を聞いて組み込んだりしています。調理や後片づけなどご利用者様と一緒に行う事で、役割を持って生活していただいています。	献立は利用者の要望や好み、旬の物、畑や差し入れの野菜を活用して、職員が作成しています。季節に応じた行事食は業者に注文していますが、誕生日は要望の赤飯を、おやつレクではパンケーキを焼いたり、利用者の好物であるとうきびや饅頭等も用意しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録として残しています。必要に応じてトロミをつけたり、ミキサー対応するなどしてます。また、その日の体調や嚥下状況に応じた対応も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際には、必要に応じて声掛けや介助を行っています。それぞれの交代に合ったケアグッズを準備して使っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの間隔を把握しタイミングを計ってトイレの声掛けや介助を行っています。自立の方は一人でゆっくり用を足せるように、またオムツの必要な方にも適切な間隔で交換に入れるようにしています。	排泄支援は利用者の状態により、1人でトイレに向かう方の見守りや介助が必要など様々ですが、トイレでの排泄を基本としています。下着や衛生用品は、利用者の意向も取り入れつつ、職員間で適切であるかを検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握し、乳製品やオリゴ糖などの腸の運動を促す物の提供や、主治医の指示の元での下剤の服用もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	大まかな予定は立てていますが、ご希望に添えるような対応を心がけています。	入浴は、午後から週2回を基本としています。重度化に備え手摺りや介護機器を用意し、利用者が安心して入浴できる態勢になっています。拒否があるときは、日時や職員を代えて入浴に繋げ、利用者は、入浴剤の香りや色を楽しみながら職員と会話をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて休息の時間をとっています。日中に休みすぎて昼夜逆転になるような方については早めの時間に休息していただくなどの工夫をいしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、専用の箱にセット内容を書いたカードをつけた上で、服薬時には他のスタッフと声を掛け合い確認して、服薬介助を行っています。薬の内容も把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな事や興味のある事、得意な事をしていただけるような支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候によい時は散歩や畑仕事などで外へ出かれます。体調面で難しい方も、テラスで日光浴をしていただくなど、その方に合った支援の方法を工夫しています。	外出も制約がありますが、感染症対策に配慮しながら周辺の散歩、公園の桜見物、畑の野菜の成長を眺めたり、庭先のベンチで外気に触れています。ドライブでバラ園を訪れ、気分転換と開放感に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の難しい方がほとんどですが、ご本人からの希望があれば、お預かりしている金銭の中で買い物代行などしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆や代読、電話の介助は必要時に行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装や家具等は刺激のない物をしようしていますが、季節の飾りつけも行いますが、急に変わって混乱を招かないように注意しています。	神棚を祀っている居間は、台所が一体化しており、常に利用者の動きが察知できる造りになっています。過ごし易い環境になるよう動線確保のためにソファを撤去したり、空気清浄機など電気機器の利用や清掃等に配慮しています。季節飾りや塗り絵など、利用者の作品を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には居間で過ごしていただく事が多いですが、希望により自室へ戻ったり、他のご利用者様とトランプやゲームをするなど楽しんでいただけるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様と一緒に家具を運び入れたり、部屋の模様替えのお手伝いをしたりしています。必要な物がある場合は、ご家族様へ連絡し設置のお手伝いも行います。	6畳ある居室にはクローゼットを設置しています。持ち込まれたベッドやテレビ、仏壇、編み物道具、写真等は、利用者が安心して暮らせる品々となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し、できるだけ自力で移動できるように支援しています。トイレや洗面所などは、ご利用者様それぞれの使いやすい場所をスタッフが把握しており、使用が重なる時間などは順番を調節するなどしています。		